

体育会学生の就職活動状況調査（2020年12月）

2020年12月

合同企業説明会など就活イベントが多数開催され、就職活動を始動する学生が増えてきました。体育会学生については部活動や大学のテストなど多忙を極める中、どのように就職活動に取り組むかが重要になっています。今回12月時点での「アスプラ2022」利用学生へ2度目のアンケート調査を行いました。

【調査概要】

調査対象：『アスプラ2022』に登録している体育会学生

回答件数：425件

調査方法：インターネット

調査期間：2020年12月1日~12月7日

【TOPICS】

▼合同企業説明会の参加数について

合同企業説明会に参加した学生の参加率は、オンラインが78.6%、対面が56.7%と、オンラインの参加率が高い結果になった。

▼エントリーについて

10月時点でエントリーを1社もしていない学生は50.0%に対し、12月の調査では全体の32.5%という結果になった。

▼企業選びの軸について

【安定性】【社会的交流性】【金銭的報酬】【愛他性】【社会貢献】の上位5項目については10月時点と変化はないが、2番目に多い【社会的交流性】についての数値が増加傾向にある。

<本資料について>

本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。
資料のご利用やご質問等に関しては、下記までご連絡ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社アスリートプランニング 広報担当

Tel: 03-5937-8460（受付時間：9:00~18:00/土日祝日を除く）

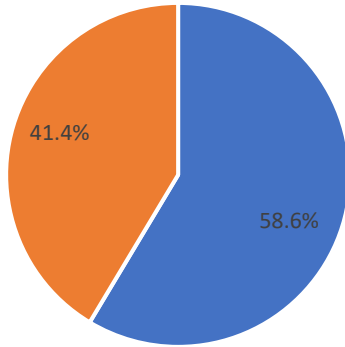
Mail: athlete2022@asupura.com

◆就職活動の状況について

○インターンシップ参加実績について

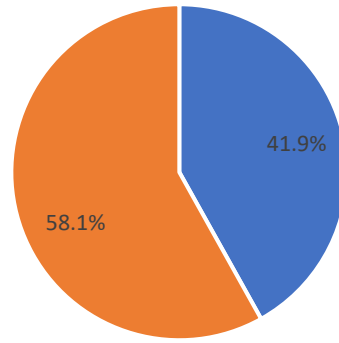
インターンシップに既に参加している学生はオンライン形式で58.6%、対面形式で41.9%と、参加実績はオンライン形式が多い結果となった。一方で、今回グラフ化していないが、対面形式に今後参加希望の学生が44.5%を占めるというデータもあった

インターンシップ参加実績（オンライン）



■ 参加した ■ 参加していない

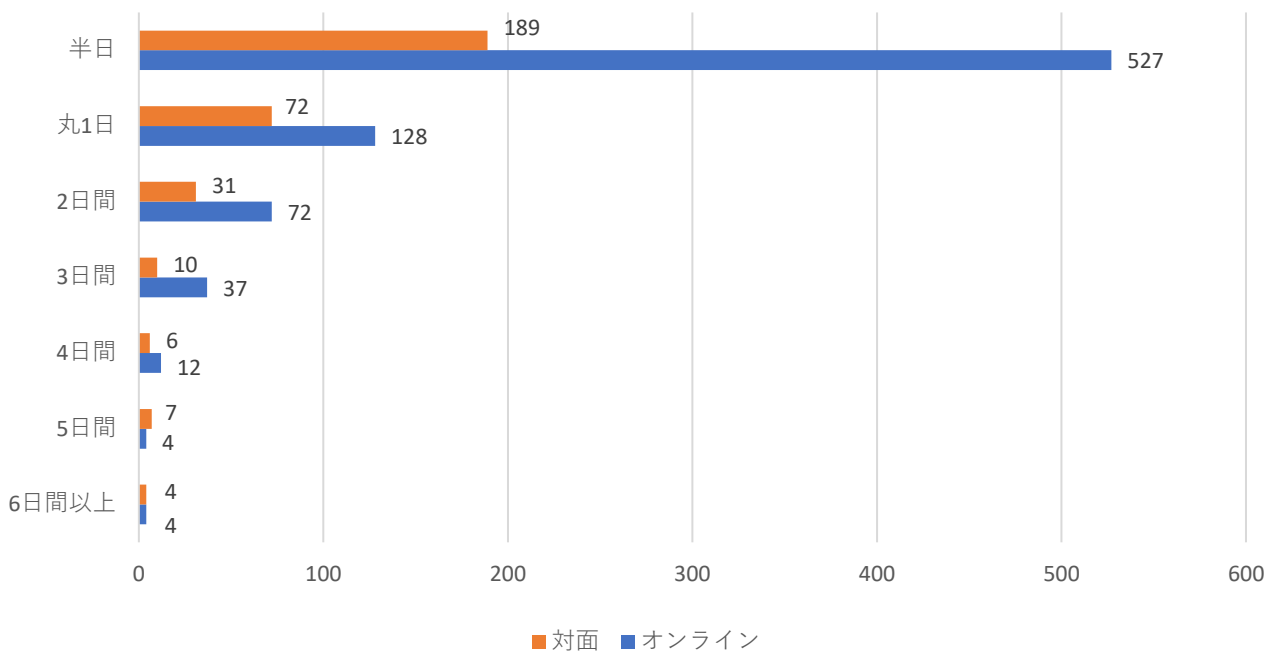
インターンシップ参加実績（対面）



■ 参加した ■ 参加していない

参加日程については、「オンライン形式」による「半日」参加が圧倒的な数値となった。移動も無く、半日で参加ができるため、学生にとっても授業や部活動の合間を縫って参加することが可能になったと考えられる。

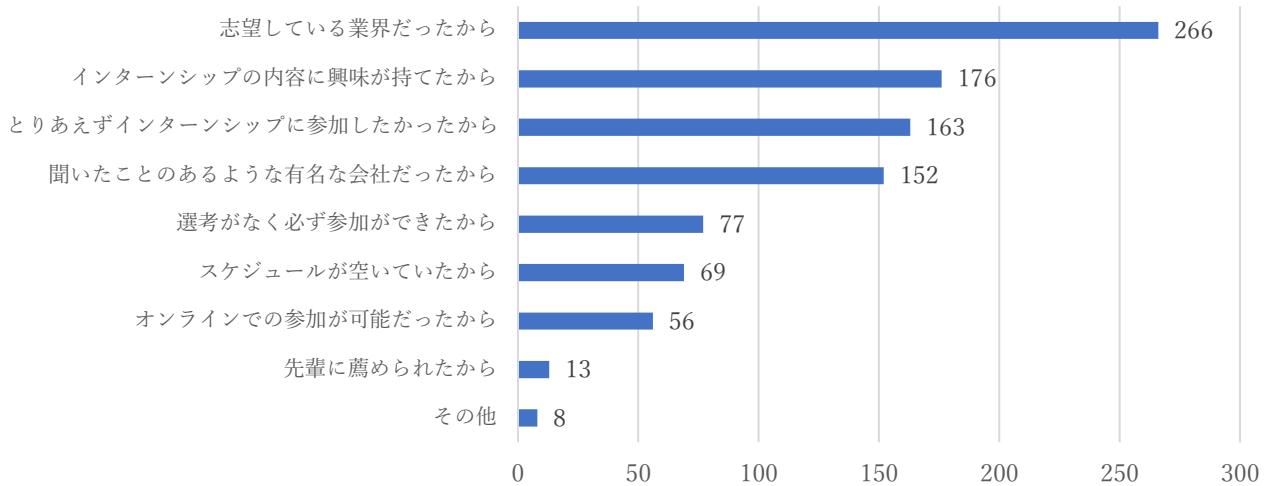
インターンシップの参加日程



■ 対面 ■ オンライン

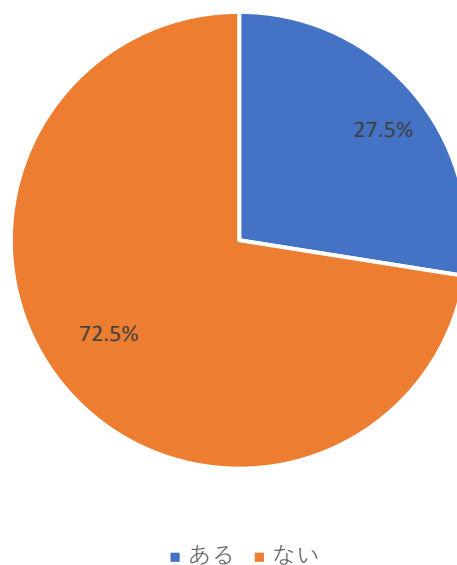
また、学生がどのような基準でインターンシップを選んでいるかについては、10月の調査同様「志望している業界だったから」という回答が最も多い。「その他」の回答が目立ったのは、ゼミの先生や兄弟、就職支援団体から勧められたという理由だった。

インターンシップに参加する企業の選び方の基準は何か



インターンシップの参加目的は企業、学生ともに様々であるが学生にとっては、そのまま本選考に進めることも魅力の一つである。現在、インターンシップに参加したことのある学生の内 27.5%がその後、本選考に進んでいることが分かる。

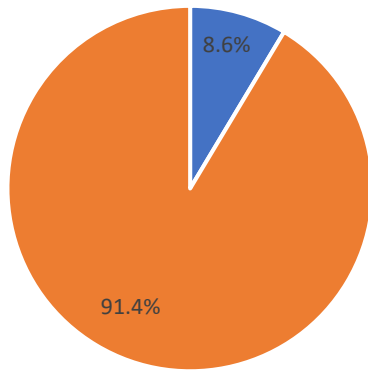
インターンシップから本選考に進んだ社数について



○OBOG訪問について

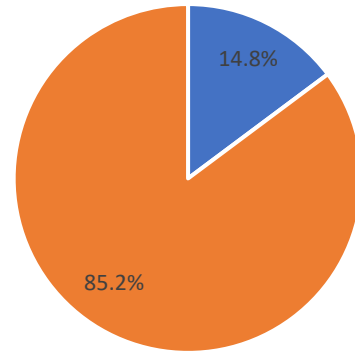
12月時点でOBOG訪問をおこなっている学生は全体の14.8%となっている。前回の8.6%より6ポイント以上伸びている。今後はOBOG訪問についてもどのような手法でおこなったのか調査していきたい。

OBOG訪問の人数（2020年10月）



■ある ■ない

OBOG訪問の人数（2020年12月）



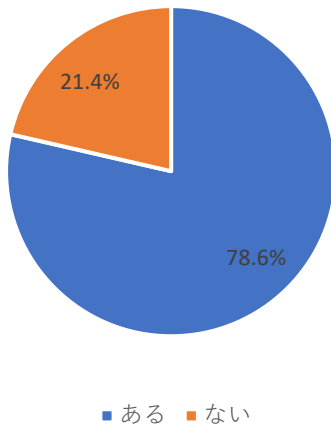
■ある ■ない

（回答人数）2020/10：370人、2020/12：425人

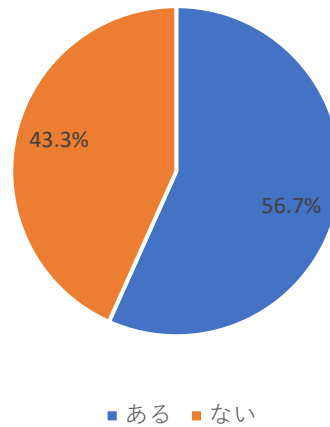
○合同企業説明会の参加数について

合同企業説明会に参加している学生はオンラインの方が多く、オンライン参加で78.6%、対面参加で56.7%となった。また、オンライン形式で10回以上参加したことがある学生が全体の6.4%で27名いる。例年の対面イベントに比べ、オンラインで効率よく業界研究ができるのは今年度ならではと言える。

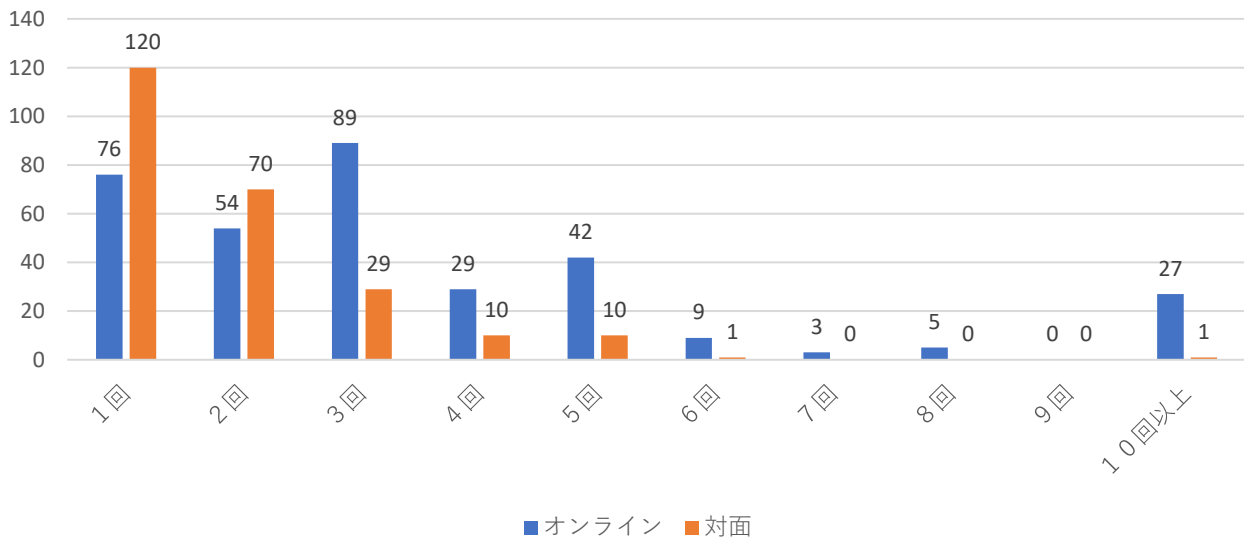
合同企業説明会の参加数（オンライン）



合同企業説明会の参加数（対面）

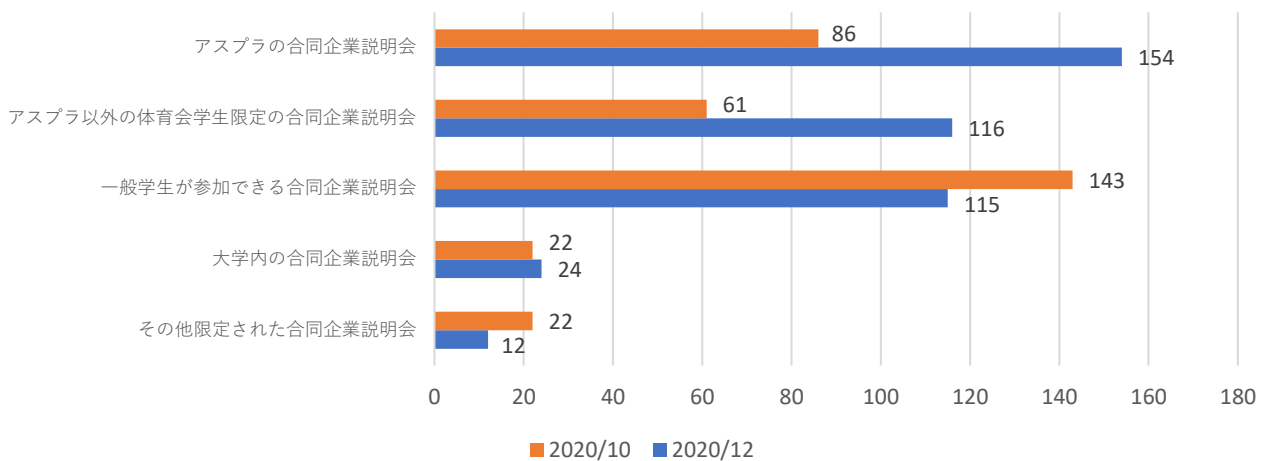


合同説明会の参加数



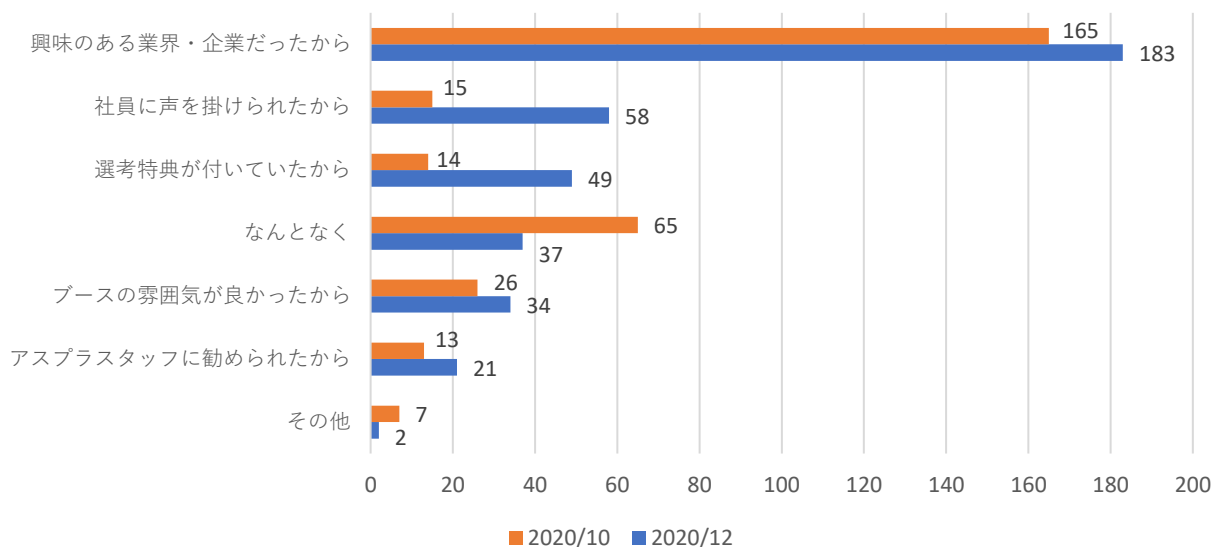
前回の調査では、「一般学生が参加できる合同企業説明会」が最も多く占めていた。しかし、今回最も多かったのが、「アスプラの合同企業説明会」で154名、次いで「アスプラ以外の体育会学生限定の合同企業説明会」が116名となった。就職活動が本格化するにつれ、体育会学生は“体育会学生限定”の就活支援サービスを利用する傾向にあるということがわかる。

参加した合同企業説明会の種類について

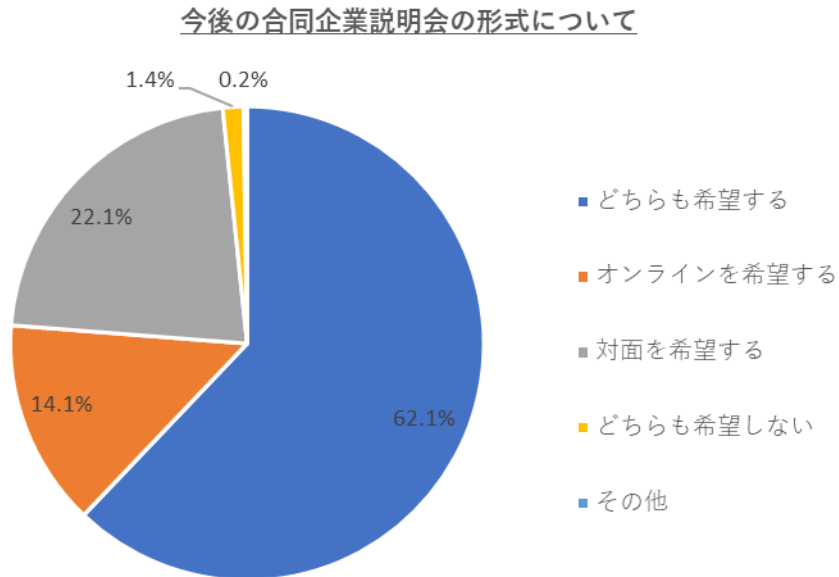


前回の調査同様、ブースに着席しようと思う基準は「興味のある業界・企業だったから」が最も多く183名となった。しかし、前回2番目に多かった「なんとなく」の回答よりも「社員に声を掛けられたから」や「選考特典がついていたから」のポイントが増加している。前回調査時に比べ、学生の意識の高まりや企業への興味、関心が強まっていることが分かる。

合同企業説明会でブースに着席しようと思う企業の基準は何か



12月にピークを迎える合同企業説明会について「今後の合同企業説明会の形式について」のアンケートをおこなった。最も多いのが「どちらも希望する」の62.1%である。また、オンラインを希望する割合よりも対面を希望する学生が多いことが分かった。

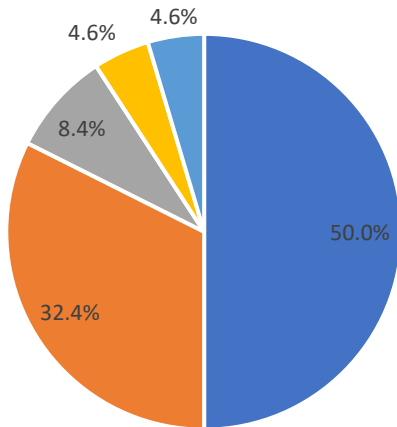


◆選考状況について

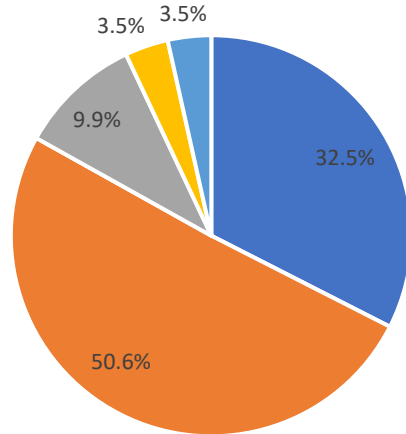
○エントリーについて

前回の10月時点でエントリーを1社もしていない学生は50.0%に対し、12月の調査では全体の32.5%という結果になった。また「1~10社」については18.2ポイント増加していることから、10月以降にエントリーを開始する学生が多いことが分かる。

エントリー数（2020年10月）



エントリー数（2020年12月）

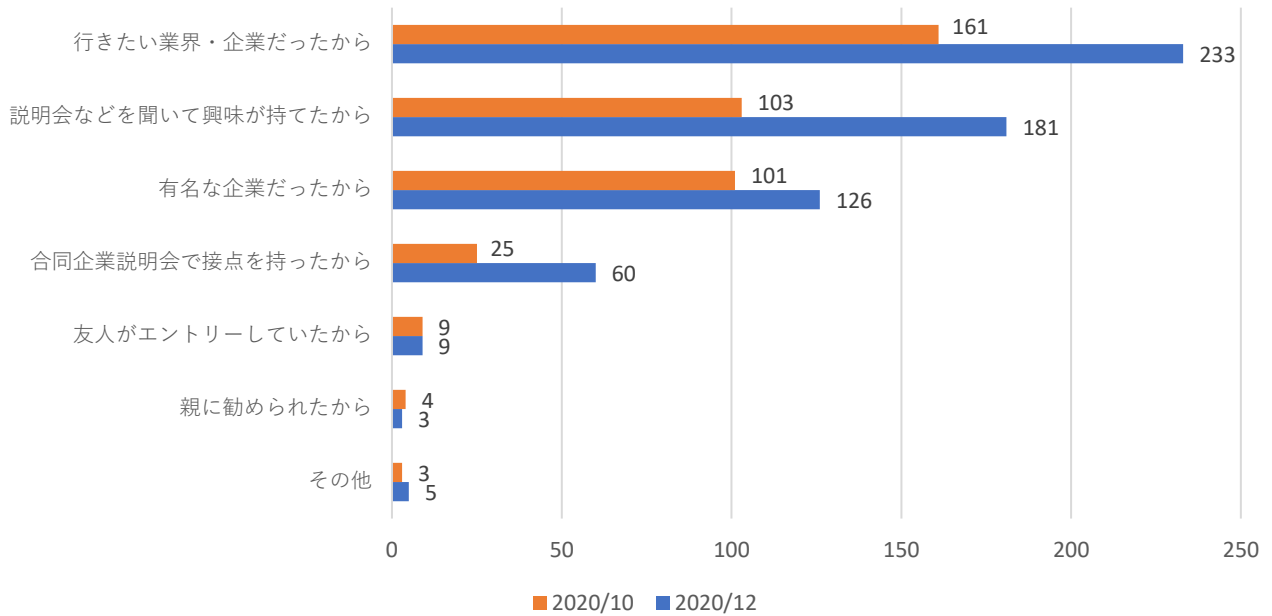


■ 0社 ■ 1~10社 ■ 11~20社 ■ 21~30社 ■ 31社以上

（回答人数）2020/10：370人、2020/12：425人

エントリー理由について、上位4つについては増加傾向にある。中でも「説明会などを聞いて興味を持てたから」「合同企業説明会で接点を持てたから」が増えているのは、企業との接点が増えてきていることが影響されている。このことから早い段階で学生と接点を持つことが企業にとって重要であるということが分かる。

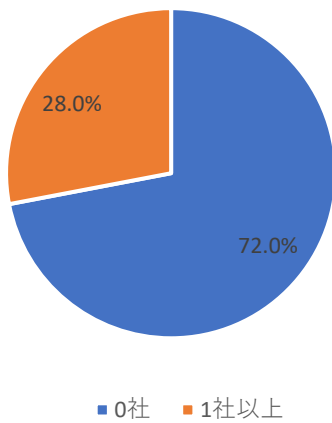
エントリー理由について



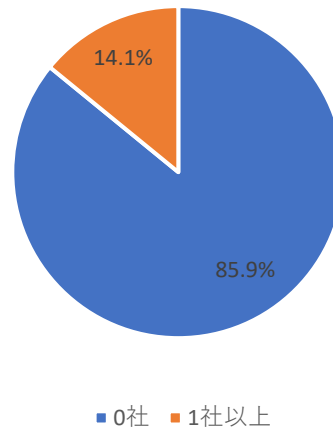
○選考について

選考参加に関してはまだ少なくオンラインは28.0%、対面は14.1%となっている。オンラインと対面を比較すると、一度でも参加したことのある人数はオンラインの方が59名多いことが分かる。選考をオンライン形式で実施するのか、対面形式で実施するのかは選考フローによって変えていく必要がある。今後、企業がどのように進めていくのか傾向を見ていきたい。

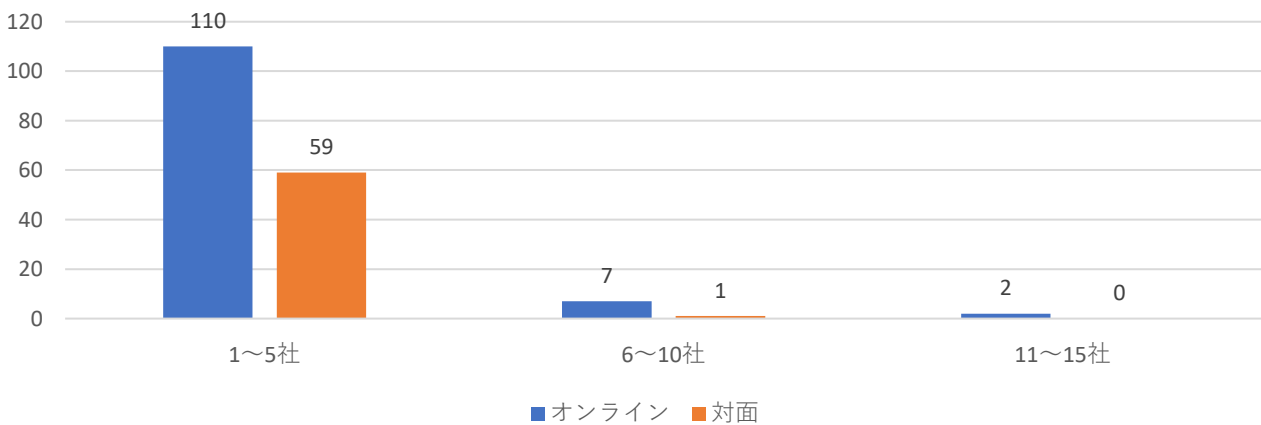
選考参加社数（オンライン）



選考参加社数（対面）

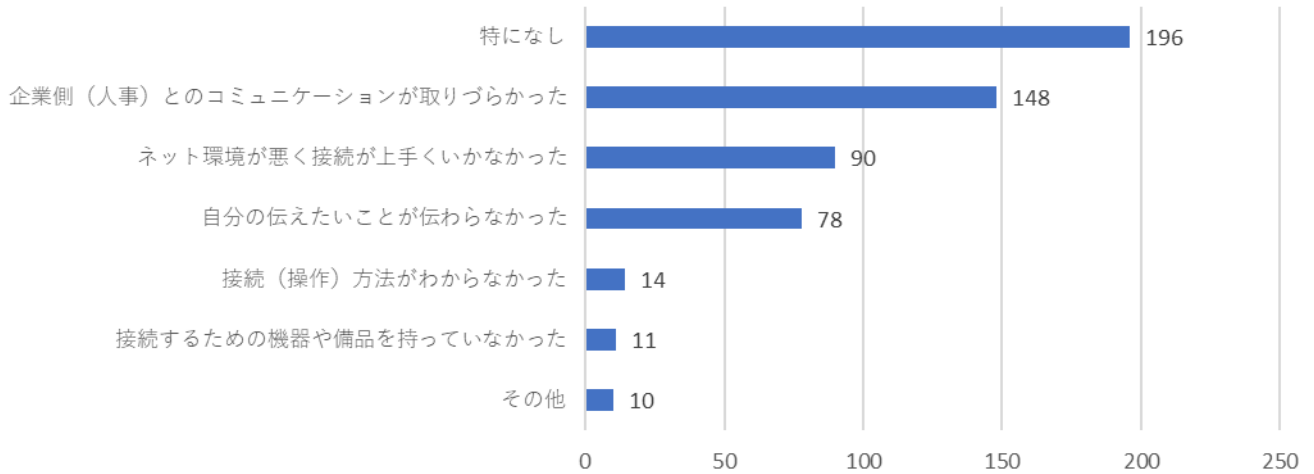


選考参加社数



オンラインで就職活動をする際に「企業側（人事）とのコミュニケーションが取りづらかった」という回答が2番目に多い。学生が人事（面接官）とどのようにコミュニケーションを取れば選考に対する満足度が上がるのか、企業側にも工夫が必要だといえる。

オンラインでの説明会や選考で困ったこと

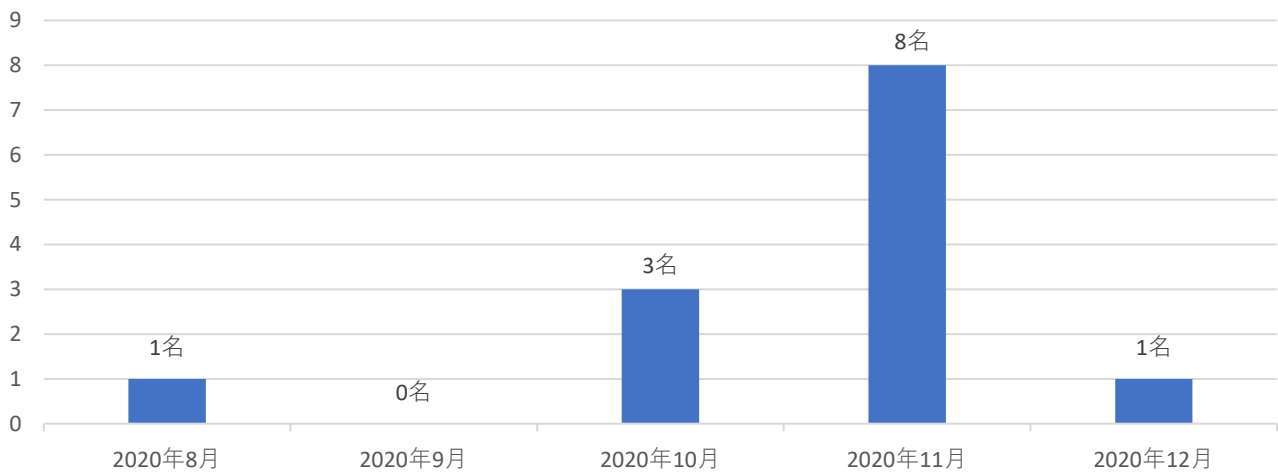


◆就職活動の決め手について

○内定について

内定保有者については既に2社の企業から内定をもらっている学生が1名、1社の企業から内定をもらっている学生が12名という結果になった。また時期についても、10月以降から数字が伸びていることがわかり、今後も増加していくことが見込まれる。

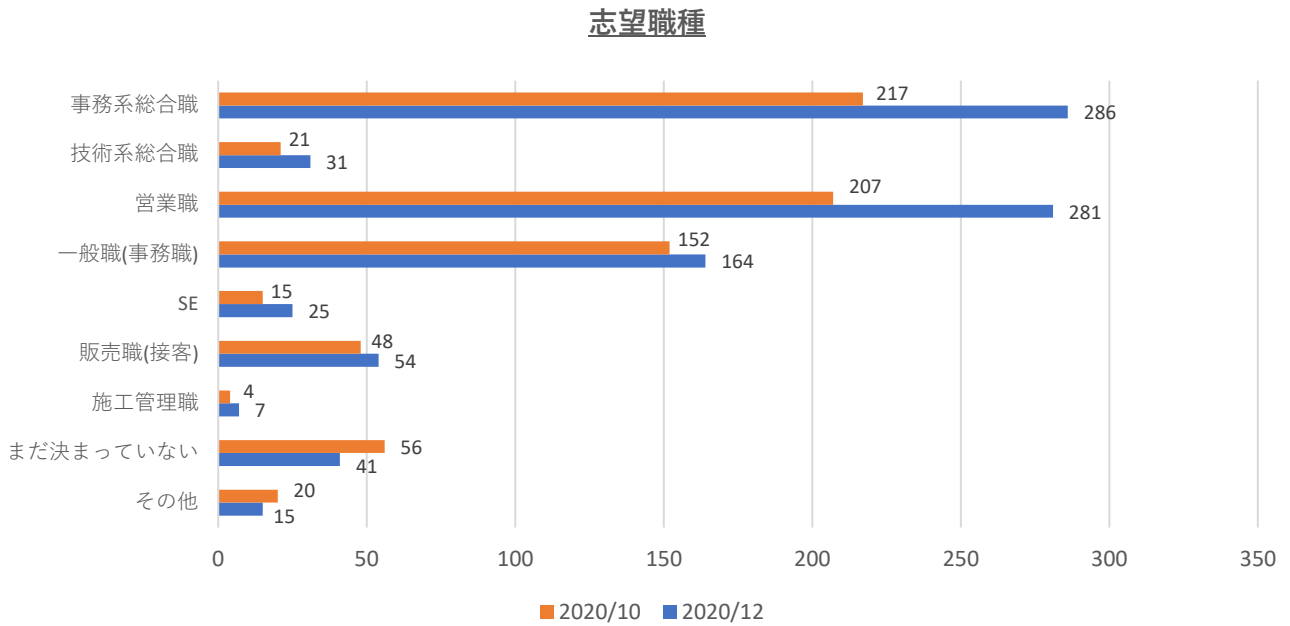
1社目の内定をもらった時期



○企業の決め手について

志望職種については前回と大きな変化はなく、「事務系総合職」が最も多く286票、次に「営業職」が281票となっている。

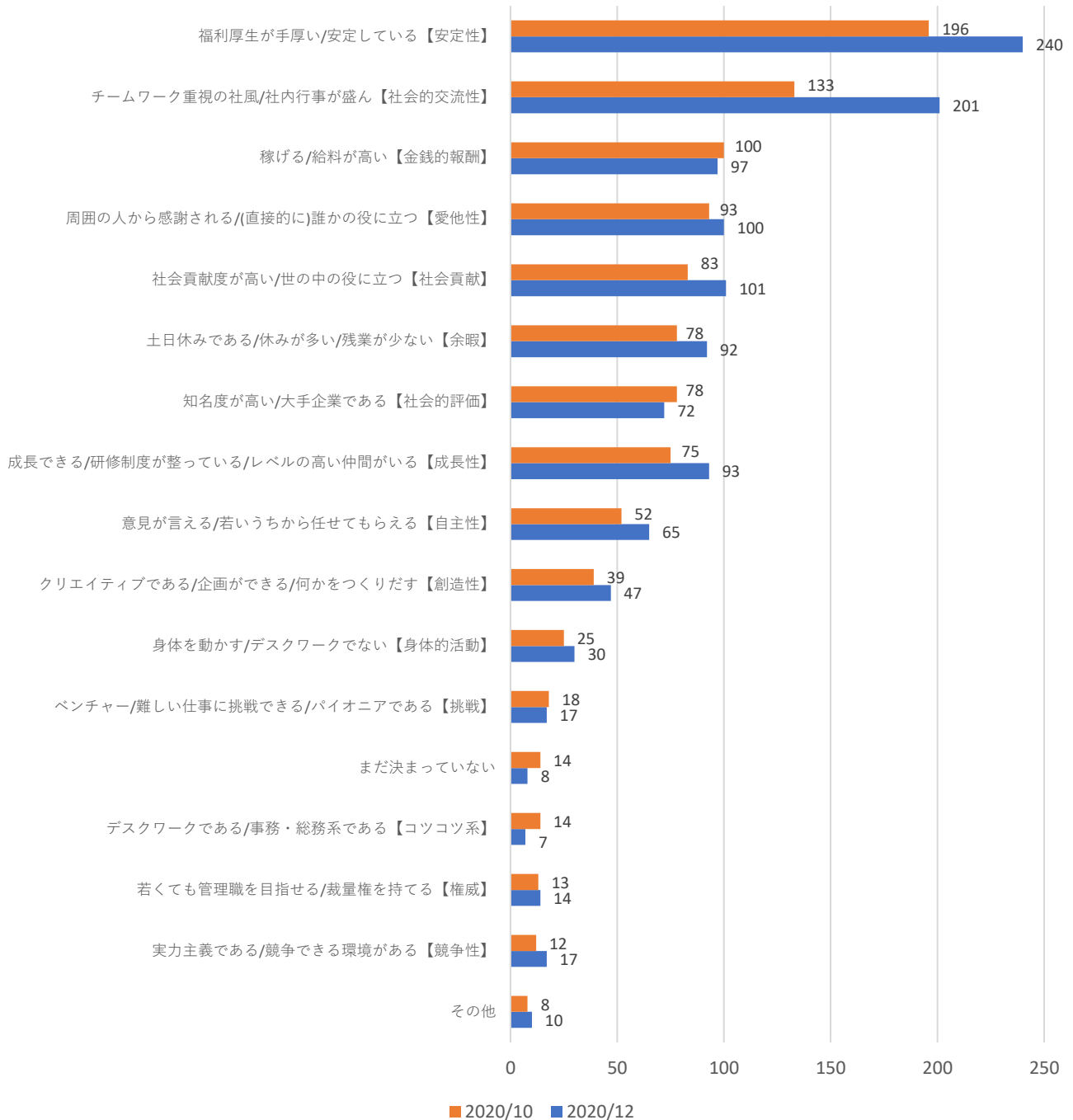
また、「その他」の回答の中には、医療ソーシャルワーカーやセラピスト、アクチュアリーといった専門職の名前があがっている。



【安定性】【社会的交流性】【金銭的報酬】【愛他性】【社会貢献】の上位5項目については10月時点と変化はないが、2番目に多い【社会的交流性】についての数値が増加傾向にある。

また、「その他」の回答に複数あったのは『勤務地が選べる』や『転勤がない』という回答である。働くエリアを限定している学生がある一定数いることが分かる。

企業選びの軸について



こちら前回と順位に大きな差はないが、「エージェント（就職支援会社のスタッフ）」や「アスプラスタッフ」と回答する学生が増えている。体育会学生は他の学生に比べると、部活動などで就職活動を行う時間に制限がある。より効率良く有益な情報を求め、上記のような就活支援を利用しているという事が予想される。

また、コロナの影響で人との接点が減っていることが懸念されるが、「誰にも相談していない」という回答については1.6%という結果になった。誰かに相談できる環境や行動を取れていることはとても良い傾向である。

就職活動の相談相手について

